

2008春季生活闘争

J R 連合 F A X ニュース

47

2008年 3月14日

日本鉄道労働組合連合会

2008 春季生活闘争

「第一のヤマ場」結果を踏まえてのコメント

J R 連合は、連合が設定する3月12日からの「第一のヤマ場」における、J R 東海ユニオン、J R 東日本ユニオン、J R 西労組、J R 九州労組の妥結結果を受け、別紙のコメントを発表した。

一昨日の I M F - J C の集中回答日の3月12日において自動車総連ならびに電機連合傘下の大手組合が昨年に引き続き、有額回答を引き出したが、賃上げは昨年並みの水準で妥結するなか、3月13日、J R 東海ユニオンが J R の先陣を切って純ベア900円(昨年+300円)、夏季手当3.0ヶ月(昨年+0.05ヶ月)、休日割増率については150/100(現行135/100)に改善する回答を引き出し妥結した。続いて J R 東日本ユニオンが賃金改善930円(昨年+30円)を引き出し妥結した。さらに同日、J R 西労組が基本給500円加算、年間臨給5.5ヶ月(昨年同月)、契約社員・シニア社員については時給5円加算を引き出し妥結した。そして本日、J R 九州労組が純ベア400円(昨年+100円)、夏季手当2.66ヶ月(昨年+0.01ヶ月)、契約社員の純ベア200円(昨年+100円)の回答を引き出して妥結した。

なお、J R 連合は、第2のヤマ場(3月17日~3月29日)での回答引き出しにむけ、現在、果敢に交渉展開中の J R 3 単組ならびにグループ労組へ、この結果を波及させ、安全輸送をはじめ、現場最前線で奮闘する組合員の期待に応えるべく、成果の引き出しに更に全力をあげて取り組むことを明らかにしている。

<別紙>

2008 春季生活闘争「第一のヤマ場」結果を踏まえてのコメント

2008 春季生活闘争「第一のヤマ場」結果を踏まえてのコメント

2008年3月14日
日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR連合加盟のJR東海ユニオン、JR東日本ユニオン、JR西労組、JR九州労組は、連合が設定する3月12日からの「第一のヤマ場」において、相次いで回答を引き出した。

2008 春季生活闘争は、「生活の維持向上をめざし、社会的な分配のあり方に労働組合として積極的に関与し、内需拡大などマクロ経済への影響力を発揮する」ことを目標に掲げ、連合加盟組合は積極的に成果配分の拡大・是正に取り組んできた。

こうした中、「第一のヤマ場」初日の12日には、IMF - JCが集中回答日に臨み、多くの組合で昨年に引き続き有額回答を引き出した。しかし、米国のサブプライムローン問題や、原油や原材料の高騰の影響で、景気後退への懸念が台頭し、賃上げは昨年並みの水準にとどまった。

JRにおいても、同様に厳しい交渉が続いた。しかし、JR連合において春闘の先導的役割を担うJR東海ユニオン、JR西労組、JR九州労組は、「賃金は最大の労働条件」との位置づけで、徹底的に要求実現にこだわり、粘り強い交渉姿勢を貫いた。

その結果、3月13日、JR東海ユニオンがJRの先陣を切って純ベア900円(昨年+300円)、夏季手当3.0ヶ月(昨年+0.05ヶ月)、休日割増率については150/100(現行135/100)に改善する回答を引き出し妥結した。続いてJR東日本ユニオンが賃金改善930円(昨年+30円)を引き出し妥結した。さらに同日、JR西労組が基本給500円加算、年間臨給5.5ヶ月(昨年同月)、契約社員・シニア社員については時給5円加算を引き出し妥結した。そして本日、JR九州労組が純ベア400円(昨年+100円)、夏季手当2.66ヶ月(昨年+0.01ヶ月)、契約社員の純ベア200円(昨年+100円)の回答を引き出して妥結した。

この間、JR連合各単組が引き出した回答は、3年連続となるベア獲得や割増賃金率の改善、そして非正規労働者の労働条件向上など、昨年を大きく上回る成果であると共に、連合が今次春闘において提起した課題について十分に認識し、厳しい交渉環境下においてなお、JR連合として連合加盟組合の責務を十分に果たしたものと言える。

JR連合は各組合に対し、最後まで精力的に取り組み、またこれを職場から支えた組合員および家族の皆さんの努力に、心より敬意を表する。

引き続きJR連合は、残るJR3単組について第2のヤマ場(3月17日~3月29日)での回答引き出しにむけ、全力で取り組む。さらに、JR各単組が引き出した成果を、グループ各組合の交渉に波及させ、安全輸送をはじめ、現場最前線で奮闘する組合員の期待に応えるべく、成果の引き出しに更に全力をあげて取り組むことを明らかにする。